

健康づくり・スポーツ推進特別委員会行政視察概要

- 1 視察月日 令和6年11月11日（月）～11月12日（火）

- 2 視察先及び視察事項
 - (1) 福岡県
福岡県スポーツ振興センター事業について
 - (2) 株式会社リージョナルクリエーション長崎（長崎県長崎市）
長崎スタジアムにおけるスポーツ交流拠点の取組について

- 3 視察委員
委 員 伊 藤 くみこ

視察概要

1 視察先
福岡県

2 視察月日
11月11日（月）

3 対応者
教育庁体育スポーツ健康課長（挨拶・説明）

4 視察内容

（1）福岡県スポーツ振興センター事業について

ア 各事業の内容について

（ア）研修・研究事業

研修・研究事業として、体育・スポーツの推進を図るため、県民一人一人のライフステージに対応したスポーツの機会を提供することを基本方針としている。指導者養成事業も積極的に展開し、市町村では実施できないような事業を推進している。

（イ）スポーツ普及促進事業

スポーツの普及を目的として、福岡県立スポーツ科学情報センター（アクション福岡）におけるトレーニング室の無料開放、25メートルプールスクール体験教室、健康体力測定、市町村健康づくりサポート相談事業や講師紹介等を行っている。

（ウ）情報提供事業

情報提供事業として、スポーツの普及と競技力の向上を目指して、ホームページ「ふくおかスポネット」の運営、メール配信、LINE、InstagramやYouTubeによるスポーツ情報の発信を行っている。

（エ）国体サポートプロジェクト

国民体育大会8位以内の入賞を目標として、スポーツ科学や情報ネットワークを活用した各種サポートを実施している。

（オ）スポーツ医事・健康体力相談事業

スポーツ競技者に対し、総合運動能力向上相談、筋力向上相談、全身持久力向上相談、スポーツ心理相談やスポーツ医事相談を実施している。健康体力づくりを目指す者に対しては、健康体力づ

くり相談を実施している。

(カ) 福岡県総合型地域スポーツクラブ活性化支援事業

各クラブ、各地区連絡協議会及び県連絡協議会のさらなる活性化に努め、地域に根づいたクラブ運営の基盤整備を支援している。

(キ) 施設提供事業

福岡県立スポーツ科学情報センター（アクシオン福岡）では、アリーナ（バスケットボール、バレーボール、卓球、バドミントン、柔道、剣道、ダンス等）、クライミングウォール・ボルダリングウォール、プール、スケートリンク等の施設が利用できる。射撃場も競技者や猟友会等が利用している。

また、無酸素パワー測定器、集団用運動負荷試験システム、個人用運動負荷試験システム、単関節筋力測定器（バイオデックス）、フォースプレート、リバウンドドロップジャンプ等、高機能・高額な機器を含む約40種の測定機器を備えている。

(ク) スポーツ教室

専門的な指導者によるスポーツ教室を実施し、スポーツの楽しさや喜びを体験するとともに、幼児、小学生から大人まで、幅広い内容と時間を提供し、個々のニーズにあったスポーツライフの実現と体力づくりを目的としている。

イ 福岡県タレント発掘事業について

体力測定会を実施し、小、中学生期におけるタレント（才能）を有する人材を見だし、適切な指導により組織的・計画的に育成し、その能力に応じた競技に導くことによりトップアスリートとして活躍できる可能性を広げる。この取組を通して世界を目指したスポーツ活動に主体的に取り組むことができるプログラムを実施する。中学、高校生期からトップアスリートとして世界で活躍できる可能性が高い競技を探すことを目的とし、小学校6年生、中学校2年生では、競技選択に関する情報提供を行い、中学校3年生では高校生期の進路や実施競技を話し合い、自らが競技を選んで決定する。

ウ 質疑概要

Q タレント発掘事業について、どのような方法で体力測定を行い、人材を見いだしていくのか、もう少し詳しく教えてほしい。

A 体力測定会に学校単位で参加できるようになっている。スポーツの得意、不得意に関係なく参加してもらい、これを契機にスポーツに触れる機会、興味を持ってもらうことも一つの目的である。

令和5年度の参加者は5万5000人であった。体力測定会参加者には選考の測定能力表を配り、どういった点が平均を上回ったかなど結果を分析し、評価していく。分析については大学の教授など専門性の高い者が行う。その評価を基に参加者へ声をかけ、二次選考、三次選考と段階を踏み、対象者を絞った上で、その能力が生かせる競技へとつなげていく。

Q 最終的には自ら競技を選択するとのことだが、選択される競技種目は国体で行われるものが多いのか。また、最初に行っていた競技とは異なるものを選択するケースも多いとのことだが、どのような理由からなのか。

A 選択される競技種目は多岐にわたる。結果的には競技人口が少ないものを選択するケースも少なくない。今年のオリンピック出場選手は8名いたが、フェンシングのメダリストは中学校まで陸上競技をしていた。自転車競技の3人のメダリストのうち2人はバスケット、残りの1人はサッカーから転向したというような例がある。普段経験できないスポーツに特化した選択により、オリンピックなどの国際大会における好成績につなげられる可能性が高くなる。

Q 福岡スポーツセンター事業全体において、課題と考えている点があれば教えてほしい。

A 事業において中核となる福岡県立スポーツ科学情報センター（アクション福岡）の施設の老朽化が課題である。また、施設の一般利用者はトレーニングジムの利用のみが多く、利用者が固定化され、高齢者の利用料減免等もあり収入が少ない。施設ネーミングライツの募集もしたが、目立たない立地条件のため応募はなかった。加えて、事業規模に見合った予算になっていない。

（2）委員所見

小、中学生期から才能のある人材を見だし、世界を目指すトップアスリートを育成する事業において、オリンピックなどの国際大会のメダリスト等の可能性が高くなる、競技人口の少ない競技を選択するという手法に少々驚きを感じた。

一般に提供しているスポーツ施設が、アリーナやプールだけではなく、クライミングウォール・ボルダリングウォール、スケートリンク場なども利用できることは、素晴らしいと感じる一方、様々な事業が競技者側に偏ってしまい、一般の方へ体育・スポーツの施策を広げる

ことの難しさを感じた。



(福岡県庁にて事業説明聴取)



(会議室にて説明聴取及び質疑)

視察概要

1 視察先

株式会社リージョナルクリエーション長崎（長崎県長崎市）

2 視察月日

11月12日（火）

3 対応者

長崎プロジェクト推進部 P J 管理運営課職員（挨拶・説明）

4 視察内容

（1）長崎スタジアムにおけるスポーツ交流拠点の取組について

ア 長崎スタジアムシティ建設の経緯について

長崎スタジアムシティは株式会社ジャパネットホールディングスが民主導で整備し、2024年10月に開業したスタジアムを中心とした複合施設である。

（開業までの経緯）

2017年：長崎にサッカースポーツチームの本拠地をつくり、展開していく事業が面白いと考え、資金繰りが厳しかった J リーグサッカークラブ「V・ファーレン長崎」をグループ会社化

2018年：三菱重工の造船工場事業再編により跡地活用事業が公募となり、優先交渉権の獲得により開発がスタート

2019年：民間主導の地域創生モデルの確立を目指し「株式会社リージョナルクリエーション長崎」を設立

2020年：B 1 プロバスケットボールクラブ「長崎ヴェルカ」を設立

2022年：通販事業における映像の自社放送のノウハウを活用して、「BS J a p a n e x t」を開局し、BSの放送局に新規参入

2024年：10月に長崎スタジアムシティを開業

イ 長崎スタジアムシティの施設概要

長崎スタジアムシティの総事業費は約1000億円である。プロサッカークラブ「V・ファーレン長崎」のホームスタジアムとなる約2万人収容のサッカースタジアム（P E A C E S T A D I U M）とプ

ロバスケットボールクラブ「長崎ヴェルカ」のホームスタジアムとなる約6千人収容のアリーナ(HAPPINESS ARENA)がある。また日本初のサッカースタジアムビューホテル、スタジアムシティホテル長崎は243室、食べる・学ぶ・遊ぶが詰まった楽しさあふれる商業施設には約60~70店舗(約30店舗が飲食店)が入居している。その他、長崎県内最大級のフロア面積のオフィス棟があり、長崎大学大学院による産学官連携の推進や、企業間の交流も進めている。長崎スタジアムシティはジップライン・アミューズメント施設や800台収容の立体駐車場などを有する複合施設であり、長崎駅徒歩約10分、浦上駅徒歩約8分という立地にある。

ウ ジャパネットの通販事業とのつながりについて

通販事業では商品を見つけることから始まり、商品をプロデュースする。商品売るために、発信する媒体として自社で番組をつくり情報を届ける。観光パッケージツアーも商品であり、つくって通信販売で売る。この手法で長崎でのクルーズ旅行も成長している。

スポーツチームと地域創成も、眠っている観光資源を掘り起こし、顧客が楽しめるコンテンツとして磨いていき、発信して届ける。通販と同じ考え方で事業に取り組んでいる。

エ 長崎スタジアムシティの具体的な事業

日本一ピッチに近いサッカースタジアムでは試合を身近に感じ観戦できる。年間約20試合が行われる。観客席の後ろに建つホテルの客室やプールなどから競技を観戦できる。

アリーナはセンタービジョン・プロジェクションマッピングなどの演出や音響にもこだわり、試合を盛りあげている。バスケットの試合は年間約30試合行われる。練習場が併設されており、試合だけでなく練習も見て、地元の方に親近感を持っていただきたいと考えている。アリーナではコンサートも開催される。

試合の前後にレストランでの食事、スーパーマーケットで買い物をして帰るなど、観戦に合わせた付加価値を創出している。

(ア) 年間稼働の工夫

試合のない日(年間約330日)は、誰でも自由にスタジアムに入ることができる。公園のようなのびのびとした空間を散歩でき、スタジアムの客席を仲間とのランチや園児の遊び場などに利用していただき、スタジアムの日常使いを行い、にぎわいをつくることで集客効果につなげている。

(イ) 渋滞緩和の取組

長崎は山間にある街で狭く、試合やイベントのある日は渋滞しやすい。渋滞緩和の取組として、試合やイベント時の駐車場の完全予約制（平日は予約は不要）やアプリ精算を取り入れている。また、試合の日はJRのフリーパス、パークアンドライドの仕組みやオリジナルビールをつくりアルコールを飲みながらの観戦など、車ではなく公共交通の利用に誘導するなどの渋滞緩和の取組を行っている。

(ウ) 自社の強み

自社の強みを生かし、物販、飲食、ガチャガチャなどスタジアム内の支払い全てをキャッシュレスで完結できる仕組みを構築している。

(エ) その他

ホテルには、外部のレストランとコラボレーションした、イタリアンや高級感あるフレンチレストランがある。ホテル最上階は150～200人は入店できるライブレストランがある。

若者へアンケートを行った結果、施設に「遊ぶ場所」が欲しいとの回答があったので、アミューズメント施設を造った。スタジアム上を通過するジップラインがあり、世界でも珍しくスタート時に海が見渡せる。

オ 質疑概要

Q 行政との関わりについて教えてほしい。

A 県・市と対策チームをつくり、交通系統や観光、補助金の利用等について協議を行ない対策を講じてきた。要望や過度な期待もあり、最初は苦労したこともある。例えば、稲佐山に登るロープウェイを延伸し、長崎スタジアムシティに発着地をつくってほしいとの要望があったが、現時点では、川と道路に阻まれる地形のため難しい。ただ、できれば実現したいと考えてはいる。

Q 市民がスポーツ観戦を楽しむだけでなく、一つのまちづくり事業とを感じるが、これからどのような展開をしていくのか

A スポーツ観戦やイベント関係において、駅から歩ける距離に立地している強みを生かしたい。県外からの観光客は、長崎県内の有名な名所を一泊で観光するというパターンが多いが、長崎スタジアムシティが長崎市内観光の中心として、「もう一泊」の滞在のきっかけとなるような事業展開をしていきたい。

また、長崎市の人口転出が多いため、この流れを変えていきたいと考えている。一民間事業だけでは大きく変えられないかもしれないが、きっかけとなるよう地方創生にかける思いを長崎で成功させ、全国の地方を元気にする取組を広げていきたい。

(2) 委員所見

お聞きしたいことを全て網羅したような丁寧な説明をしていただいた。説明を受けた場所は、競技開催時の審判員の部屋でお隣は実況中継の部屋とのことであった。このようなスペースを会議等にも使用することによって、様々な施設を無駄なく利用していることに感心した。スタジアムを中心とした複合施設であり、施設も利用の仕方も大変素晴らしいと思った。「憩いの場」となることで心身共に市民の健康増進につながり、スポーツ観戦を楽しむことができる。地方創生への強い思いを感じ、スポーツのみならず、観光推進、まちづくりの観点からも多くのことを学ばせていただいた。



(P E A C E S T A D I U M)



(長崎スタジアムシティにて説明聴取と現地視察)